

THORENS®

TD124DD



取扱説明書

目次	Page
はじめに	3
保証について	3
伝説の復活 トーレンス TD124DD	4
各部の名称	5
開梱とセッティング	6
シャーシの調整	7
トーンアームとカートリッジ	8
アンチスケーティング・ウェイトの取り付け	8
カートリッジの取り付け	9
トーンアームウェイトの取り付けと調整	10
針圧の調整	11
トーンアームの高さ調整(VTA)	12
アジマスの調整	12
接続	13
電源の接続	13
HiFi システムへの接続	14
操作方法	15
レコードの種類	15
スタート、ストップ、スピード	15
トーンアームリフター	16
速度微調整(ピッチ)	17
仕様	18

はじめに

トーレンス TD124DD レコードプレーヤーをご購入いただき、誠にありがとうございます。

この機器は、完璧な操作を実現するために、慎重に取り扱い、セットアップする必要があります。ターンテーブルとトーンアームは、今後何年にもわたって音楽をお楽しみいただけます。

本書では、貴重なレコードを未永くお楽しみいただくためのセットアップ方法について詳しく説明します。 ご使用前に、このマニュアルをよくお読みください。

さらにご不明な点がございましたら、お気軽に最寄りのトーレンス正規販売店にお問い合わせください。

保証について

保証期間はお買い上げ日より 2 年間です。この期間中に不具合が発生した場合は、トーレンス販売店に連絡し、その後の手順について話し合ってください。宅配便などによる発送の場合は、敏感なデバイスがしっかりと梱包されていることを確認し、できるだけ元の梱包を使用してください。

トーレンスの保証は、ターンテーブル、トーンアーム、モーター（制御電子機器および電源を含む）を対象としています。

誤用や輸送中の損傷による不具合は、トーレンスの保証の対象外となります。疑問がある場合は、必ず最寄りの販売店にお問い合わせください。

警告！

湿気の多い環境で操作しないでください。

スイッチを入れる前に、すべての接続が安全に行われていること、および電圧が適切であることを確認してください。

電源ユニットは地域の主電源電圧に対応します。

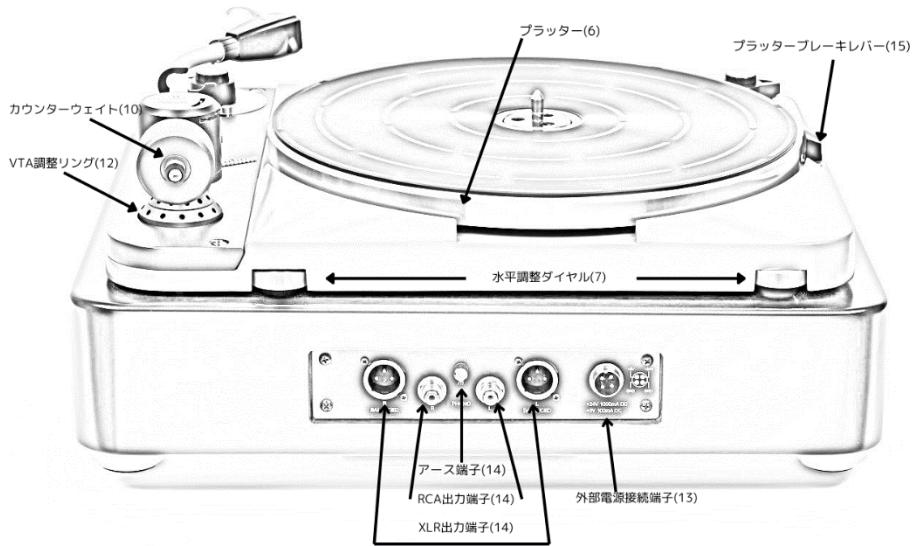
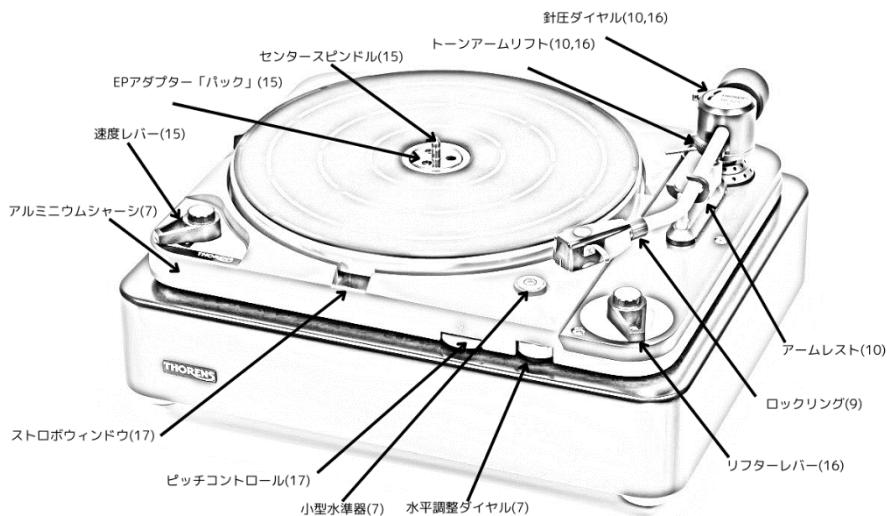
伝説の復活 トーレンス TD124DD

TD124DD の伝統は、当社の最も伝説的なターンテーブルのひとつにまで遡ります。オリジナルの TD124 は 1957 年に発売され、世界中の無数の放送スタジオで何十年も使用されてきました。野心的な音楽愛好家も、この高精度のターンテーブルをすぐに発見しました。熱心なファン層は、今日まで TD124 に忠実であり続けています。

まったく新しい TD124DD は、この伝統を受け継ぎ、最先端のテクノロジーでさらに進化させました。高さ調整可能なアルミニウム・シャーシは、振動を減衰するゴム部品の上にあります。アイドラー・ホイールとベルトを使用したオリジナルのドライブの代わりに、高精度ダイレクト・ドライブが採用されています。

トーンアーム TP 124 も新しくなりました。選択したカートリッジに合わせて、すべてのパラメータを正確に調整でき、ルビー・ベアリングと特許取得済みの電動トーンアーム・リフトを備えた革新的なアンチスケーティング・ソリューションを備えています。独立した高品質電源ユニットが最適な電源を提供します。バランス出力とアンバランス出力により、お手持ちのシステムに接続する事が出来ます。新しい TD124DD は、大成功をおさめたオリジナルの TD124 の基本コンセプトと最新のソリューションおよび革新的なテクノロジーを融合し、まったく新しい再生品質を実現しています。

各部の名称（参照ページ）



開梱とセッティング

レコードプレーヤーと付属品を梱包から慎重に取り出します。

ご注意: 外部電源ユニットは、別の場所に同梱されています。



Fig. 1

レコードプレーヤーを希望の場所に置きます。

置き台はできるだけ安定し、真っ直ぐで、平らである必要があります。

プラッターを個別のパッケージから取り出し、反対側の 2 か所の端を持ちます。プラッターの中央の穴を上から見て、傾けずにモーターシャフトにまっすぐ慎重にゆっくりと下ろしていきます。



Fig. 2

シャーシには、2 つの切り欠きがあり、1 つは前面にストロボ・ウインドウ用、もう 1 つは反対側

の背面にあります。プラッターを下げるときは、指がこれらのくぼみに入っていることを確認してください。(Fig.2)

これでドライブの取り付けは完了です。

シャーシの調整

アルミニウム・シャーシは、調整可能な金属脚が付いた 4 つの防振ゴム部品の上に載っており、完全に水平に調整できます。シャーシの背面には 2 つの調整ダイヤルがあり、1 つは速度セレクターの左側にあります(Fig.3)。もう 1 つはピッチ・コントロールの前面にあります。



Fig. 3

ターンテーブルの右側前面には小型水準器が組み込まれています。これを使用して、前述のダイヤルでシャーシを水平にします。ダイヤルを時計回りに回すと、対応するペアリング・ポイントが上がり、反時計回りに回すと下がります (Fig. 4)。



Fig. 4

トーンアームとカートリッジ

アンチスケーティング・ウェイトの取り付け



Fig. 5

TP 124 トーンアームは、革新的なアンチスケーティング・ソリューションを備えています。真鍮製のウェイトが、低摩擦ルビー・ベアリングでガイドされたナイロン糸によってトーンアーム・ベースのブームに取り付けられています。このウェイトは回転するレコードのスケーティング力をターンテーブルの中心方向に打ち消す、

正確に定義された引張力を発揮します。輸送中に繊細な構造が損傷するのを防ぐため、ウェイトは別梱包されており、使用前に組み立てる必要があります。

(Fig.5)



Fig. 6

付属の小型六角レンチを使用して、トーンアーム・ベースの側面にある締め付けネジを緩めます。ナイロン糸の端にあるアイレットをトーンアーム・ベースのアンチスケーティング・ブームに通し、外側から 5 番目の溝に糸を掛けます。

(Fig.6)

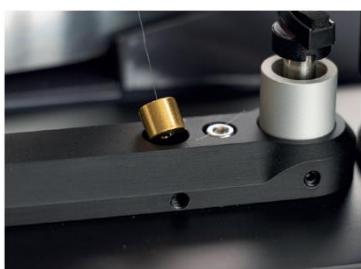


Fig. 7

次に、トーンアームベースにある開口部に真鍮の重りを慎重に挿入し(Fig. 7)、次にアルミニウム・ベアリング・ホルダーと同じ開口部に挿入して、あらかじめ組み立てられたゴムリングに載せます。ナイロン糸が絡まらず、自由に動くことを確認します。次に、横方向の締め付けネジを少し締めます(Fig.8)。

これで、アンチスケーティング・デバイスの組み立ては完了です。時間が経ってアンチスケーティング力を再調整する必要が生じた場合は、ブームのアイレットを動かすだけで調整できます。アイレットを外側に動かすとアンチスケーティング力が増し、内側に動かすとアンチスケーティング力が減ります。



Fig. 8

カートリッジの取り付け

SME バヨネットマウントを備えたすべてのカートリッジは、TP124 トーンアームに直接取り付けることができます。別のカートリッジを使用する場合は、TD124DD には SME バヨネットを備えたヘッドシェルが付属しています。

この場合、まずカートリッジ メーカーの指示に従ってカートリッジをヘッドシェルに取り付けます。(Fig.9)

ヘッドシェル内の接続ケーブルは、次のように色分けされています。

赤 = 右+

緑 = 右-

白 = 左+

青 = 左-



Fig. 9



Fig. 10

カートリッジまたはカートリッジを取り付けた状態のヘッドシェルを、バヨネットキャッチに慎重に挿入し、ロック・リングを時計回りに回してキャッチをロックします。これでカートリッジが取り付けられ、トーンアームを調整することができます。(Fig.10)

カウンター・ウェイトの取り付けと調整



Fig. 11

TD124DD には 2 種類のカウンター・ウェイトが付属しており、選択したカートリッジの重量に応じて使用されます。(Fig.11)

ヘッドシェルに取り付けられたほとんどのカートリッジと、SME バヨネットを備えた多くのカートリッジでは、小さいウェイトで十分です。オルトフォン SPU のような重いピックアップには、大きいカウンター・ウェイトを使用する必要があります。

トーンアームがアームレストに固定されていることを確認します。(Fig.12)

付属の六角レンチを使用して、カウンター・ウェイトの側面にある皿ネジを少し緩め、ウェイトをトーンアームの端に慎重にスライドさせます。

(Fig.13) ウェイトを慎重に回転させながら、皿ネジを再度少しだけ締め、ネジがトーンアームの螺旋溝にかみ合うまで続けます。これで、ウェイトを前後に回転させて軸上のウェイトの位置を正確に変更できます。

レコードをターンテーブルに置き、トーンアームをロックから外し、トーンアーム・リフトが下がっていることを確認して(16 ページを参照)、レコードの溝のほぼ中央に針を置きます。トーンアーム・ベアリング上部の針圧ダイヤルが 0 に設定されていることを確認します。

(Fig.14) 次に、カウンター・ウェイトを慎重にさらに後ろに回し、カウンター・ウェイトだけで針



Fig. 12



Fig. 13



Fig. 14

が溝から持ち上るようにします。次に、ウェイトを少し前に回して、カートリッジとカウンターウェイトの重量がバランスするようにします。小さいウェイトでバランスが取れない場合は、カートリッジが重すぎます。上記のように大きいウェイトを取り付けて、最初からやり直してください。

針圧の調整

トーンアームのニュートラル位置を調整したら、トーンアーム・ベアリング上部のダイヤルを使用してカートリッジの推奨針圧を設定できます。推奨値は、カートリッジの技術仕様に記載されています。トーンアーム・ベアリングの上部左側にある金属属レバーを動かして、スケールの小さなピンが希望の値を正確に指すように調整します (Fig.15)。ほとんどの場合、この調整方法で十分な精度が得られます。完璧を期したい場合は、針圧計を使用してください。上記のように、トーンアーム・ベアリングのレバーを動かして、針圧計が希望の値を示すようにします (Fig.16)。



Fig. 15



Fig. 16

トーンアームの高さ調整 (VTA)



Fig. 17

使用するカートリッジによっては、垂直トラッキングアングル (VTA) を調整する必要がある場合があります。これを行うには、次のようにトーンアームの高さを調整します。

トーンアーム・ベアリングのベースには円錐形の調整リングがあり、その上のロックナットで固定されています。(Fig.17) まず、付属の専用工具を使用して上部のロックナットを反時計回りに回して緩めます。次に、同じ専用工具を使用して下部の調整リングを動かします。時計回りに回すとトーンアームが上がり、反時計回りに回すと下がります。

トーンアームの高さを正しく設定したら、調整リングを手で押さえながらロックナットを少し締めます。

アジマスの調整

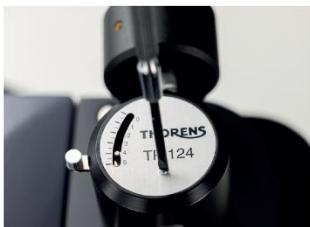


Fig. 18

溝の側面に記録された音楽情報を正確にスキャンするには、針がレコードの表面に対して正確に 90 度の角度になっていることが不可欠です。この角度は一般にアジマスと呼ばれ、カートリッジによっては調整できるものもあります。それ以外の場合は、TP124 トーンアームを使用して次のように直接アジマスを調整できます。

細いマイナスドライバーで固定ネジを緩め、カバープレートを慎重に取り外して、トーンアーム・ベアリング上部のカバーを取り外します。(Fig.18)

トーンアームチューブのクランプネジは、カバーの中央、トーンアームベアリングハウジングのわずかに凹んだ位置にあります。(Fig.19)

2.5mm の六角レンチで、トーンアームチューブをほとんど力を入れずに回せるようになるまで、慎重に緩めます。適切なテンプレートを使用して、カートリッジのアジャマスを調整し、クランプネジを慎重に再度締めます。次に、トーンアームベアリングの上部のカバーを元に戻し、再度締めます。

接続

電源の接続

TD124DD の電源は、外部電源ユニット TPN 124 を介して供給されます。まず、付属の接続ケーブルを電源ユニットの出力に接続し、次に TD124DD の背面にある対応する入力に接続します。(Fig.20) 安全な操作のために、これらのコネクタはロックナットでロックする必要があります。

その後、付属の電源ケーブルを使用して電源ユニットをコンセントに接続します。電源ユニットの背面にある接続ソケットの上には、ユニットの電源をオン/オフにする主電源スイッチがあります。スイッチが位置 0 にある場合、ユニットは電源から完全に切断されます。



Fig. 20

HiFi システムへの接続



Fig. 22

TD124DD は適切なフォノ・プリアンプに接続する必要があります。どのフォノ・プリアンプが適しているかは、基本的に使用するカートリッジによって異なります。

TD124DD を適切なフォノ・プリアンプまたはアンプのフォノ入力に接続するには、2 つの方法

があります。可能な場合は、XLR 端子を介してバランス接続を使用すると、最高の音質が得られます。その他の場合は、RCA 端子とアース端子を、TD124DD および選択したフォノ・プリアンプまたはアンプの適切な端子に接続します。

(Fig.22)

ご注意： MM カートリッジを使用する場合は、必ず RCA 端子のアンバランス接続をしてください。

XLR と RCA の 2 系統の同時駆動は想定していないため、同時使用されると本機および接続使用されている機器が破損する可能性があります。

操作方法

レコードの種類

TD124DD は、追加のアクセサリなしで LP と EP(シングル、ドーナツ盤)の両方を再生できるように考慮されています。

LP と通常の 7mm のセンターホールを持つすべてのレコードは、センタースピンドルに合わせて慎重にプラッターに置くだけです。

センターホールが大きい EP の場合は、対応するアダプター(「パック」)が TD124DD のターンテーブルにすでに組み込まれています。これはスプリング式で、右に少し回すだけで引き出すことができます。パックを再び下げるには、パックを押し下げながら左に回し、所定の位置に戻します(Fig.23)。



Fig. 23

スタート、ストップ、スピード

再生速度は、ターンテーブル前面の左側にあるレバーで選択します。(Fig.24)

レバーを左に動かすと 33 1/3 回転、右に動かすと 45 回転になります。中間位置(「0」)では、ドライブの電源がオフになり、プラッターがゆっくりと停止します。

プラッターの回転を速く停止したい場合は、プラッターの左側にあるプラッター ブレーキ レバーを後方に押します。(Fig.25) プラッターが停止したら、レバーを元の位置に戻します。



Fig. 24

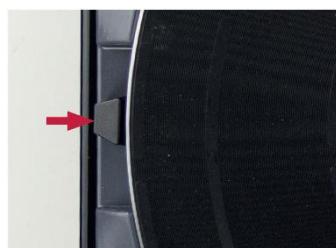


Fig. 25

トーンアーム・リフター



Fig. 26

TD124DD には、ピックアップ針をレコード溝に安全に上げ下げするための電動トーンアーム・リフターが搭載されています。このリフターは、シャーシの右側にあるレバーを使用して操作します。(Fig.26)

レコードを再生するには、まず正しい再生速度を選択します。トーンアーム・リフターが上の位置にあることを確認します (Fig.26)。トーンアームをロック位置から外し、リードイン溝または再生を開始するレコードの他の部分に移動します。次に、リフター・コントロールレバーを左の「下」位置に動かすと、針が自動的に下がります。

(Fig.27)

再生を停止する場合、またはレコードの終わりに達した場合は、リフト コントロール レバーを「上」位置に戻してトーンアームを上げます。トーンアームが上の位置に達したら、アームレストに戻すことができます。

ご注意: TD124DD には自動シャットオフ機能はありません。レコードの最後まで到達したら、エンド位置での針の不要な摩耗を避けるために、前述のようにトーンアームを持ち上げる必要があります。

速度微調整（ピッチ）

TD124DD のドライブには、プラッターの回転速度を正確に調整するためのストロボスコープが組み込まれています。

速度を微調整するには、レコードをかけてターンテーブル・ドライブを始動します。プラッターが最大回転速度に達するまではしばらく待ってから、ターンテーブルの前にあるストロボ ウィンドウを上から見てください。そこに、数列のドットが見えます。(Fig.28)

33 1/3 回転を選択した場合、最も外側のドット列は静止しているように見えます。ドットが左に動く場合は、サブシャーシ前面のピッチ・コントロールを、「0」とマークされた中央の位置から始めて、ドットが動かなくなるまでゆっくりと右に回します。ドット列が右に動くように見える場合は、ピッチ・コントロールを左に回します。(Fig.29)

45 回転の場合、必要に応じて、上記のように調整しますが、この場合は外側から 2 列目のドットに着目してください。

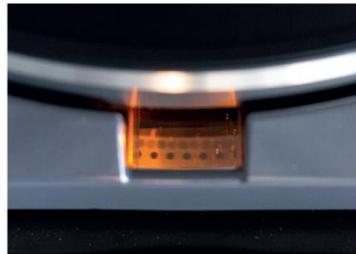


Fig. 28

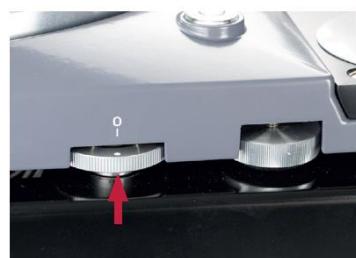


Fig. 29

仕様

Specification TD124DD	
ドライブシステム	ダイレクトドライブ
消費電力	5W
外部電源ユニット	TPN 124
回転数	33.3 , 45 rpm
ワウ・フラッター DIN / WRMS	≤ 0.04 %
ブラッター	アルミ 3.5 kg
トーンアーム	TP 124
トーンアーム有効長	232.8 mm
オフセット角	23.66°
オーバーハング	17.8 mm
実効質量	15 g
ヘッドシェル質量	12.8 g (リード線含む)
適合カートリッジ質量	(小ウェイト) 3~16 g (大ウェイト) 8~30 g 15.8~28.8 g (ヘッドシェル、リード線含む) 20.8~42.8 g (ヘッドシェル、リード線含む)
アンチスケーティング	ルビーベアリング付きカウンターウェイト
出力端子	RCA / XLR
外形寸法	425 x 185 x 350 mm (W x H x D)
本体質量	17 kg

トーレンス日本総代理店 株式会社PDN

PDN

〒240-0005 神奈川県 横浜市 保土ヶ谷区 神戸町 134
横浜ビジネスパーク ノーススクエアⅡ-5 階